社会コミュニケーション委員会活動報告
―地域と身近なテーマで共築する土木広報戦略「土木遺産ツアー」へのアプローチと展開―

社会コミュニケーション委員会幹事長
緒方 英樹（一般財団法人全国建設研修センター）

住民に身近なテーマや題材で土木リテラシー向上の促進を

住民や社会にとって「土木」というフィールドが縁遠いものとなっている。

写真1　城下町建設の舞台裏 ―日本橋を歩く―

そのことによって懸念されるのは、土木の役割に対する住民意識との乖離が、これからの健全で良好な社会構築に及ぼす影響である。相互の情報・意識の差異を是正していくためには、住民に身近なテーマで土木リテラシーを促進していく必要がある。

特に、土木に価値を見いだせない人たちとのコミュニケーションを重要視することは、とかく敬遠されがちだったと考える。

土木学会が土木と社会をコーディネートする役割を担って、正確でわかりやすい情報を発信するだけでなく、双方向的なコミュニケーション形成を積み重ね、「土木」が人々の暮らしと密接に関わっていることに思いをはせるためのアプローチも重要だ。

たとえば、私たちの身近には、土木が人と自然、地域社会と関わってきた歴史に学ぶことのできる地域の資産（人・構造物や施設など）が大なり小なり全国各地にある。

目線と立ち位置の近いアプローチで「土木遺産を訪ねて」

社会コミュニケーション委員会から土木学会100周年事業に提起して実施している「土木遺産ツアー」は、東京編、海外編、座学講座編という構成で進めている。

親しむ・楽しむ・学ぶ土木学会とNHK文化センターとの連携

- 全体企画：緒方英樹
- 企画および講師：土木学会（阿部貴弘・小野田滋・福島秀哉）
- 集客・実施：NHK文化センター

「土木遺産ツアー」東京編は、土木となじみの薄かった人たちに、土木構造物や施設に親しむ・楽しむ・学ぶという場面設定と講師（インタープリター）派遣を土木学会が担い、集客・実施をNHK文化センターが行なっている。全国に52の教室を設け、年間のべ約75万人の一般住民が受講するNHK文化講座の顧客層を取り込むコラボモデルとして、段階的に定着させ継続、全国へ展開したいともくろんでいる。

第一弾～大東京建設の舞台裏～は、各回午前（10：30～13：00）と午後（14：30～17：00）それぞれ定員20名（写真1、2）。当初、午前1回のみの開催を予定していたが、すぐに申し込みが殺到して定員オーバーとなったため同日2回開催として実施した。

写真2　キャンセル待ちも出た小野田滋講師の東京駅ツアー

私たちの住んでいる東京はどのように建設されたのか。徳川家康の江戸建設、明治維新後の近代化、関東大震災からの帝都復興を画期に、ゆかりの土木遺産を専門家とめぐる各回2時間半のツアーである。

第1回7月12日「関東大震災と帝都復興　東京の礎をつくる」／第2回8月9日「東京駅と高架鉄道　赤煉瓦と赤絨毯」／第3回9月13日「城下町建設の舞台裏　日本橋を歩く」を実施、各回満員かそれに近い盛況ぶりで、10月からの第2弾―江戸城外濠をゆく―も人気継続中である。

100周年記念事業第一弾「烏山頭水庫と台南水道」を訪ねて

海外編として海外初の選奨土木遺産に認定された烏山頭（うさんとう）ダムと台南水道を訪ねる土木遺産台湾視察研修（10月11～14）には、総勢20名が参加した（写真3）。

土木学会社会コミュニケーション委員会が企画・コーディネート、代表を山崎隆司委員長が務めた。現地では、土木学会台湾分会、嘉南農田水利会、台南県政府などとの連携や協力によって、烏山頭水庫や台南水道施設をつぶさに見学、特に台南水道では、土木学会台湾分会支部長である柯武徳先生の案内で、歴史資産となって保存されている浄水場の建屋や濾過器室内に入って説明を受けた。今回、烏山頭施設や台南水道で、台湾側専門家との活発な討論と交流が実現したことも意義深いことだった。

本視察には、八田與一没後70年ということもあって、NHK台北支局取材班も烏山頭水庫施設、復元された烏山頭宿舎などに同行した。土木学会と一般の方が参加した視察研修の様子は10月18日、NHKBS1「ワールドWaveトゥナイト」で放送・紹介されて話題を呼んだ。

一方、NHK文化センターとの連携による座学講座では、10月10日から「戦国武将と土木力 ～人物で知る国土史～」（講師・緒方英樹）が開講した。戦国武将が、なぜ多くの費用や労力をかけ、技術を磨き、土木（普請）の仕事を行なったのか。その謎を、古来より災害の多い日本独特の自然環境から解いていくことで、土木と私たちの暮らしとの関わりについて解説している。

いずれも、一般に対して堂々と土木という冠をつけて集客、実施、継続している事例として報告させていただいた。

写真3　八田與一技師銅像の前で